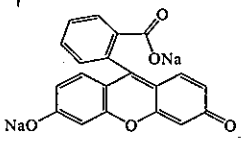
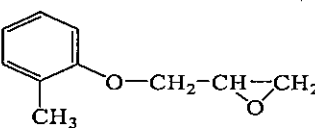
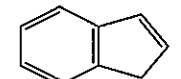
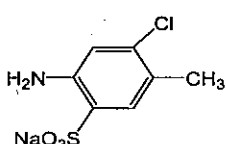
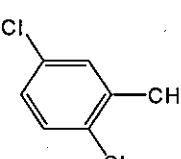
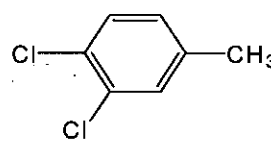
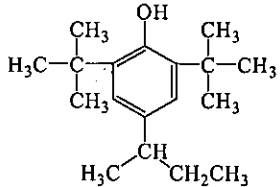


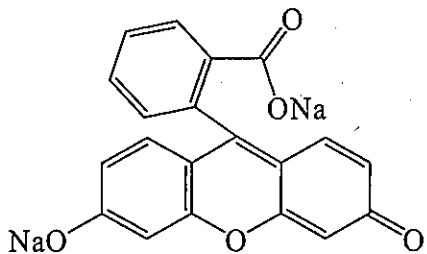
K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定結果 (0内は既判定)	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1825	ジナトリウム=2-(6-オキシド-3-オキソ-3H-キサンテン-9-イル)-ベンゾアート (518-47-8) 5-673 5-1416 	BOD : -2, 0, 1 (0) ^{*1} TOC : 0, 1, 1 (0) HPLC: 1, 1, 1 (1)	有機物質の塩 であるため測 定不可 -0.67 ^{*2}	1区: 0.27倍以下 2区: 2.7倍以下 脂質含有率 開始前 2.94% 終了後 4.14%	難分解性 高濃縮性では ない	なし	1
1827	[(2-メチルフェノキシ)メチル]オキシラン (2210-79-9) 3-0574 	BOD : -3, -3, -2 (0) ^{*1} TOC : 2, 3, 1 (2) HPLC: 91, 91, 90 (90) 被験物質の大部分が加水分解 して、3-(2-メチルフェノキシ)-1,2-プロパンジオールを 生成し、残留した。	2.28 (フラスコ振 とう法) 2.16 ^{*2}	分配係数から類推	難分解性 高濃縮性では ない	なし	4
1828	1H-インデン (95-13-6) 4-0580 	BOD : -6, -6, -4 (0) ^{*1} HPLC: 0, 1, 1 (1)	3.02 (フラスコ振 とう法) 3.25 ^{*2}	分配係数から類推	難分解性 高濃縮性では ない	なし	7
143B	4-アミノ-2-クロロトルエン-5-スルホン酸ナトリウム (6627-59-4) 3-2024 	審議済(難分解性) (平成19年10月26日) BOD : 0, 0, 2 (1) HPLC: -2, -1, -1 (0)	-	1区: <3倍 2区: <24倍 脂質含有率 開始前 8.2% 終了後 7.0%	(難分解性) 高濃縮性では ない	なし	10
1201C	2,5-ジクロロトルエン (19398-61-9) 3-0078 	審議済(難分解性) (平成19年10月26日) BOD : 0, 0 (0) GC : -2, -5 (0) Closed bottle法	3.83 ^{*2}	1区: 1190倍 2区: 1160倍 脂質含有率 開始前 5.6% 終了後 6.0%	(難分解性) 高濃縮性では ない	なし	12
1201D	3,4-ジクロロトルエン (95-75-0) 3-0078 	審議済(難分解性) (平成19年10月26日) BOD : 0, 0 (0) GC : -3, 1 (1) Closed bottle法	3.83 ^{*2}	1区: 1100倍 2区: 866倍 脂質含有率 開始前 6.1% 終了後 6.6%	(難分解性) 高濃縮性では ない	なし	15

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定結果 (0内は既判定)	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1760	2, 6-ジ-tert-ブチル-4-sec-ブチルフェノール (17540-75-9) 3-0540 	審議済(難分解性) (平成18年7月21日) BOD: -1, -1, -1 (0)*1 HPLC: 3, 2, 1 (2) 被験物質の一部が試験液から 炭酸ガス吸収剤に移行した。	6.43*2	1区: 32000倍 2区: 33000倍 脂質含有率 開始前 4.16% 終了後 5.34%	(難分解性) 高濃縮性	なし	18

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v1.67 SRC-LOGKOW for Microsoft Windowsによる計算値

*3 フラスコ振とう法による予備値

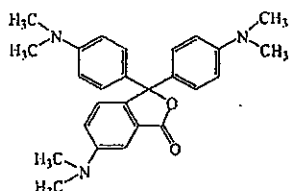
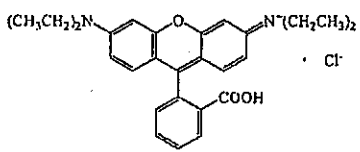
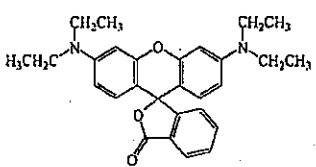
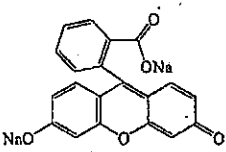
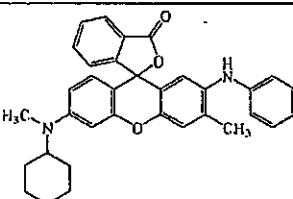
整理番号 K-1825 (5-673, 5-1416)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
ジナトリウム=2-(6-オキシド-3-オキソ-3H-キサンテン-9-イル)-ベンゾアート [別名 アシッド エロー-73] (518-47-8)		事業対象年度 平成19年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
		試験期間 19.10.3~20.2.1		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₂₀ H ₁₀ Na ₂ O ₅ 分子量 376.27		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
		試験結果 間接 BOD -2, .0, 1 (0) %		試験結果 間接		試験結果 間接	
		試験結果 直接 TOC 0, 1, 1 (0) %		試験結果 直接		試験結果 直接	
		試験結果 直接 HPLC 1, 1, 1 (1) %		試験結果 直接		試験結果 直接	
純度*1 92.1%		外観 橙色粉末		審査部会 第77回		審査部会 第 回	
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 7.9%は不明		溶解度 (対水, その他) 対水 300g/L 以上 (20℃) (フラスコ法) 対メタノール 10g/L 以上		20年 7月25日開催		年 月 日開催	
融点 測定不可 (黒色に変化)		1-オクタノール/水分配係数 有機物質の塩であるため 測定不可		判定		判定	
沸点 測定不可 (黒色に変化)				備考		備考	
蒸気圧 3.18×10 ⁻⁵ Pa 以下 (気体流動法, 80℃)		加水分解性 pH4, 7, 9 加水分解性なし		備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 98.4% (汚泥+被験物質)系 99.0% 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。		備考	
密度		解離定数 有機物質の塩であるため 測定不可					
LD50							
IRチャートの有無 (有) ・ 無							
用途							
生産量*2 (16年) 未公表							
試料 購入先 東京化成工業							
経済産業公報発表年月日		年 月 日					

*1 HPLCによる。 *2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

濃縮度試験		事業対象年度 平成19年度		濃縮度試験		濃縮度試験		濃縮度試験		毒性試験			
試験期間		19.10.1 ~ 20.2.7		試験期間		~		試験期間		年月日			
試験装置 (標)・揮		LC50値 >200 mg/L (96hr) 魚種(ヒメダカ)		試験装置 標・揮		LC50値 mg/L (hr) 魚種()		試験装置		種類			
水槽設定濃度 (mg/L)				水槽設定濃度 ()				水槽設定濃度		経過			
被験物質		分散剤		被験物質		分散剤		被験物質		経過			
第1濃度区		0.46		第1濃度区				第1濃度区					
第2濃度区		0.046		第2濃度区				第2濃度区					
第3濃度区				第3濃度区				第3濃度区					
濃縮倍率		脂質含有率 開始前 2.94% 終了後 4.14% 魚種(コイ)		濃縮倍率		脂質含有率 開始前 % 終了後 % 魚種()		濃縮倍率		脂質含有率 % 開始前 % 終了後 % 魚種()			
		6日後 9日後 13日後 21日後 28日後				日後 日後 日後 日後 日後				日後 日後 日後 日後 日後			
第1	水槽濃度 (mg/L)	0.462	0.459	0.459	0.460	0.462	第1	水槽濃度 ()					
	倍率	≤0.27	≤0.27	≤0.27	≤0.27	≤0.27		倍率					
第2	水槽濃度 (mg/L)	0.0459	0.0457	0.0461	0.0457	0.0460	第2	水槽濃度 ()					
	倍率	≤2.7	≤2.7	≤2.7	≤2.7	≤2.7		倍率					
第3	水槽濃度 ()						第3	水槽濃度 ()					
	倍率							倍率					
審査部会 第77回 20年 7月 25日 開催				審査部会 第 回 年 月 日 開催				審査部会 第 回 年 月 日 開催					
判定結果				判定結果				判定結果					
備考		[ばく露期間中における濃縮倍率] 第1濃度区 0.27倍以下 第2濃度区 2.7倍以下		備考				備考					
[回収率] 試験水* 100%		[定量下限濃度] 試験水 第1濃度区 11 µg/L 第2濃度区 1.1µg/L		[回収率] 試験水* 100%		[定量下限濃度] 試験水 第1濃度区 11 µg/L 第2濃度区 1.1µg/L		[回収率] 試験水* 100%		[定量下限濃度] 試験水 第1濃度区 11 µg/L 第2濃度区 1.1µg/L			
供試魚 93.8%		供試魚 120ng/g		供試魚 93.8%		供試魚 120ng/g		供試魚 93.8%		供試魚 120ng/g			
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構				[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構				[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構					

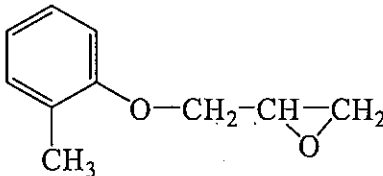
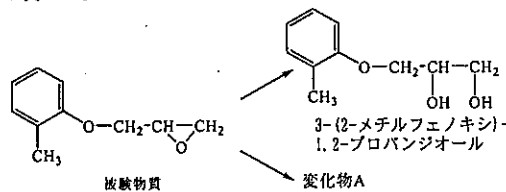
*試験液を直接分析機器に導入。

K-1825の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
3,3-ビス(<i>p</i> -ジメチル アミノフェニル)-6-ジ メチルアミノフタリド (1552-42-7)		5-0129 (K-1338)	標準(4W) 1997年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 0, 4, 0 (1)	難分解性 (1997)	1999年実施 5.27 (プラスチックと汚)	>80.0 (48hr)	1999年実施 1区(50µg/L): 500~1300 2区(5µg/L): 636~1670 脂質含有率 4.1%	高濃縮性 ではない (1999)
2-(3-ジエチルイミニ オ-6-ジエチルアミノ- 3 <i>H</i> -キサンテン-9-イ ル)安息香酸=クロリド (3375-25-5)		5-1973 5-4056 (K-847)	標準(4W) 1987年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 3, 2, 0 (2) VIS(555nm) 8, 8, 5 (7)	難分解性 (1987)	1987年実施 1.9~2.0	33.9 (48hr)	1987年実施 1区(100µg/L): <0.2 2区(10µg/L): <1.7 脂質含有率 3.9%	高濃縮性 ではない (1987)
3',6'-ビス(ジエチル アミノ)-スピロ[イソ ベンゾフラン-1(3 <i>H</i>), 9'-[9 <i>H</i>]キサンテン]- 3-オン (509-34-2)		5-3090 (K-1762)	標準(4W) 2005年実施 BOD -3, -2, -2 (0)*1 TOC 2, 0, 3 (1) HPLC 1, 1, 1 (1)	難分解性 (2006)	6.63*2			
ジナトリウム=2-(6- オキシド-3-オキノ- 3 <i>H</i> -キサンテン-9- イル)-ベンゾアート (518-47-8)		5-1416 (K-1825)	標準(4W) 2008年実施 BOD -2, 0, 1 (0)*1 TOC 0, 1, 1 (1) HPLC 1, 1, 1 (1)		測定不可	>200 (96hr)	2008年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(0.46 mg/L): ≤0.27 2区(0.046mg/L): ≤2.7 脂質含有率 開始前 2.94% 終了後 4.14%	
3-(<i>N</i> -シクロヘキシ ル- <i>N</i> -メチルアミノ)- 6-メチル-7-アニリ ノフルオラン (55250-84-5)		5-3631 (K-1655)	標準(4W) 2003年実施 BOD -8, -6, -3 (0)*1 HPLC 0, 0, 0 (0)	難分解性 (2003)	8.60*2	>15.0 (96hr)	2005年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(10µg/L): 2400 2区(1µg/L): 2500 脂質含有率 開始前 2.58% 終了後 3.80%	高濃縮性 ではない (2005)

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v 1.67による計算値。

整理番号 K-1827 (3-0574)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
[(2-メチルフェノキシ)メチル]オキシラン	事業対象年度 平成19年度	契約年月日	契約年月日
(2210-79-9)	試験期間 19.11.7~20.3.6	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 ㊟・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₀ H ₁₂ O ₂ 分子量 164.20	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
試験結果	試験結果	試験結果	試験結果
間接	BOD -3, -3, -2 (0) %	間接	
直接	TOC 2, 3, 1 (2) %	直接	
	HPLC 91, 91, 90 (90) %		
審査部会 第77回 20年 7月25日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
判定	判定	判定	判定
融点 測定不可(融点は-100~25℃に存在しない)	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 2.28 (フラスコ振とう法)	備考 1. 回収率※ (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。  被験物質 3-(2-メチルフェノキシ)-1,2-プロパンジオール 変化物A	
沸点 測定不可(210℃以上で変化)	加水分解性		
蒸気圧 8.15×10 ⁻¹ Pa(20℃)	解離定数		
密度			
LD50			
IRチャートの有無 ㊟・無			
用途*2 合成樹脂、脱水剤、乾燥剤			
生産量*2(16年) 製造及び輸入 10,000~100,000 t未滿			
試料 購入先 Aldrich Chemical			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

*1 Aldrich Chemical 添付資料による。

*2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

*3 Kowwin v 1.67 による計算値。

濃縮度試験 事業対象年度 平成19年度					濃縮度試験契約 年 月 日				
試験期間 19. 9. 20 ~ 19. 11. 1					試験期間 ~				
試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()		
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()				
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤		
第1濃度区					第1濃度区				
第2濃度区					第2濃度区				
第3濃度区					第3濃度区				
濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後		% 魚種()			
		日後		日後		日後		日後	
第1	水槽濃度 ()								
	倍率								
第2	水槽濃度 ()								
	倍率								
第3	水槽濃度 ()								
	倍率								
審査部会 第77回 20年 7月 25日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催				
判定結果					判定結果				
備考					備考				
分配係数から類推									
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構									

毒性試験
年月日

依
頼

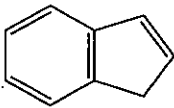
経過

K-1827の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
[(2-メチルフェノキシ)メチル]オキシラン (2210-79-9)		3-0574 (K-1827)	標準(4W) 2008年実施 BOD -3, -3, -2 (0)*1 TOC 2, 3, 1 (2) HPLC 91, 91, 90 (90)		2007年実施 2.28 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	
フェニルグリシジル エーテル (122-60-1)		3-0559 (K-551)	標準(4W) 1982年実施 BOD 18, 33, 20 (24) TOC 19, 35, 20 (25) HPLC 93, 94, 92 (93) 逆転(4W) 1982年実施 BOD 58, 33, 62 (51) TOC 66, 18, 68 (51) HPLC 98, 97, 98 (97)	保留 (1982) 良分解性 (1982)				
p-sec-ブチル フェニルグリシジル エーテル (67557-76-0)		3-0575 (K-795)	標準(4W) 1986年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 0 (0) GC 77, 78, 77 (77) [p-sec-ブチルフェニル- 2,3-ジヒドロキシプロピル エーテルを生成し、残留した。]	難分解性 (1986)	3.56*2		変化物から類推	高濃縮性 ではない (1986)
p-sec-ブチル フェニル-2,3-ジ ヒドロキシプロピル エーテル (-)		- (K-795 変化物)			1986年実施 2.71 (フラスコ振とう法)	40.2 (48hr)	1986年実施 1区(200µg/L): 4.7~6.5 2区(20µg/L): <1.7~6.8 脂質含有率 4.2%	高濃縮性 ではない (1986)

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

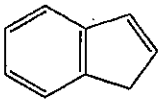
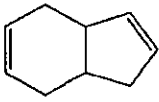
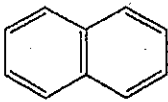
*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-1828 (4-0580)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
1H-インデン		事業対象年度 平成19年度		契約年月日		契約年月日	
(95-13-6)		試験期間 19.10.23~20.2.6		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
		試験装置 標・(揮)		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮	
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₉ H ₈ 分子量 116.16		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 4週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 96.2% (GC)	外観 ごくうすい黄色透明液体	試験結果	間接 BOD -6, -6, -4 (0)	試験結果	間接	試験結果	間接
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 3.8%は不明	溶解度(対水, その他) 対水 213mg/L (20℃) 対酢酸エチル 10g/L 以上 対アセトニトリル 10g/L 以上		直接 HPLC 0, 1, 1 (1)		直接		
融点 -8.1℃	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 3.02 (フラスコ振とう法)		審査部会 第77回 20年 7月25日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催
沸点 185.7℃	加水分解性	判定	判定	判定			
蒸気圧 2.29×10 ² Pa (25℃)	解離定数	備考	備考	備考			
密度*1 0.993g/mL (20℃)		1. 回収率 (水+被験物質)系 94.0% (汚泥+被験物質)系 94.5%	1. 回収率 (水+被験物質)系 94.0% (汚泥+被験物質)系 94.5% 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 ・被験物質は揮発性物質であるため、TOC分析は実施しなかった。				
LD50		2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構					
IRチャートの有無 (有)・無		3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 ・被験物質は揮発性物質であるため、TOC分析は実施しなかった。					
用途							
生産量*2 (16年) 未公表							
試料 購入先 和光純薬工業							
経済産業公報発表年月日	年 月 日						

*1 和光純薬工業添付資料による。 *2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

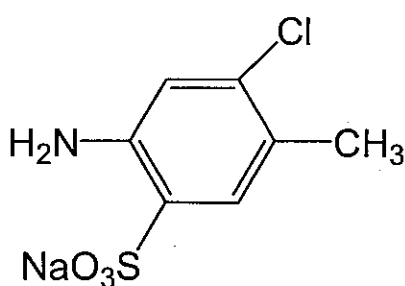
濃縮度試験					事業対象年度 平成19年度					濃縮度試験					毒性試験				
試験期間					19. 8. 14 ~ 19. 8. 27					試験期間					年月日				
試験装置 標・揮		LC50値 mg/L (hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L (hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L (hr)魚種()			依 頼 経 過				
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()									
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤			被験物質		分散剤							
第1濃度区					第1濃度区					第1濃度区									
第2濃度区					第2濃度区					第2濃度区									
第3濃度区					第3濃度区					第3濃度区									
濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()							
		日後 日後 日後 日後 日後					日後 日後 日後 日後 日後					日後 日後 日後 日後 日後							
第1	水槽濃度 ()					第1	水槽濃度 ()					第1	水槽濃度 ()						
	倍率						倍率						倍率						
第2	水槽濃度 ()					第2	水槽濃度 ()					第2	水槽濃度 ()						
	倍率						倍率						倍率						
第3	水槽濃度 ()					第3	水槽濃度 ()					第3	水槽濃度 ()						
	倍率						倍率						倍率						
審査部会 第77回 20年 7月 25日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催														
判定結果					判定結果														
備考					備考														
分配係数から類推																			
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																			

K-1828の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
1H-インデン (95-13-6)		4-0580 (K-1828)	標準(4W)2008年実施 BOD -6, -6, -4 (0)*1 HPLC 0, 1, 1 (1)		2007年実施 3.02 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	
3a,4,7,7a-テトラヒ ドロ-1H-インデン (3048-65-5)		4-0581 (K-832)	標準(4W)1996年実施 BOD 0, 0, 0 (0) G C 2, 0, 3 (2)	難分解性: (1996)	1997年実施 3.83 (フラスコ振とう法)	>26.0 (48hr)	1998年実施 1区(100µg/L): 102~285 2区(10µg/L): 160~335 脂質含有率 3.6%	高濃縮性 ではない (1998)
ナフタレン (91-20-3)		4-0311 (K-58)	標準(2W)1977年実施 BOD 0, 0 (0) G C 0, 0 (0) 逆転(4W)1977年実施 BOD 0, 7 (3) G C 0, 0 (0)	保 留 (1977) 難分解性: (1982)	3.17*2	9.0 (48hr)	1979年実施 1区(150µg/L): 37~168 2区(15µg/L): 23~146 脂質含有率 -	高濃縮性 ではない (1979)

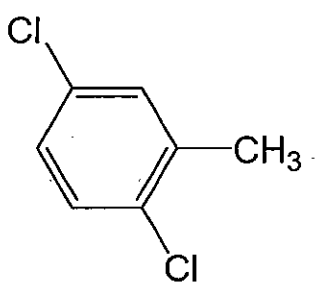
*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-143B (3-2024)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
4-アミノ-2-クロロトルエン-5-スルホン酸ナトリウム (6627-59-4)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
	試験期間 18.12.26~19.5.17	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₇ H ₇ ClNNaO ₃ S 分子量 243.65	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L 汚泥 30 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 0, 0, 2 (1) % 直接 DOC -1, 1, 0 (0) % HPLC -2, -1, -1 (0) %	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
	純度 99.9% 外観 白色結晶性粉末		
不純物 (物質名, 含有率) -	溶解度 (対水, その他) 対水 >100 mg/L	審査部会 第 68 回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点 -		判定	判定
沸点 -	1-オクタノール/水分係数	備考	備考
密度		1. 回収率 (汚泥+被験物質) 系 100%	
LD50	安定性	2. 実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	
チャートの有無 (有) ・ 無			
用途*1 添加剤 (塗料, 顔料)			
生産量*1 (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t未滿			
試料 和光純薬工業株式会社			
経済産業公報発表年月日 月 日			

*1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

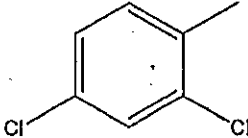
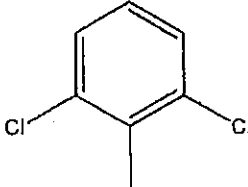
濃縮度試験							濃縮度試験							毒性試験		
試験期間 19. 12. 20 ~ 20. 3. 19							試験期間 ~							依 頼	年月日	
試験装置 (標)・揮 LC50 値 >100 mg/L (96hr) 魚種(ヒメダカ)							試験装置 標・揮 LC50 値 mg/L (hr) 魚種								経過	
水槽設定濃度 (µg/L)							水槽設定濃度 ()									
	被験物質	分散剤						被験物質	分散剤							
第1濃度区	200						第1濃度区									
第2濃度区	20						第2濃度区									
第3濃度区							第3濃度区									
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 8.2% 終了後 7.0% 魚種(コイ)							濃縮倍率 脂質含有率 開始前 % 終了後 % 魚種()									
		4日後	7日後	14日後	21日後	28日後			日後	日後	日後	日後	日後			
第1	水槽濃度 (µg/L)	205	204	205	205	203	第1	水槽濃度 ()								
	倍率	<3	<3	<3	<3	<3		第2	水槽濃度 ()							
第2	水槽濃度 (µg/L)	20.6	20.6	20.7	20.3	20.2	第2		倍率							
	倍率	<24	<24	<24	<24	<24		第3	水槽濃度 ()							
第3	水槽濃度 ()						第3		倍率							
	倍率															
審査部会 第77回 20年7月25日開催							審査部会 第 回 年 月 日 開催									
判定結果							判定結果									
備考 [定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 <3倍 第2濃度区 <24倍 [回収率] 試験水 99.3% [定量下限濃度] 試験水 第1濃度区 5 µg/L 第2濃度区 0.5 µg/L 供試魚 89.7% 供試魚 430 ng/g [実施機関] 株式会社三菱化学安全科学研究所							備考									

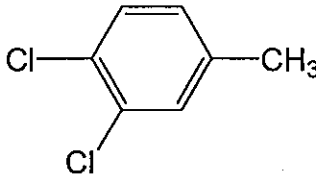
整理番号 K-1201C (3-0078)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
2,5-ジクロロトルエン (19398-61-9)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
	試験期間 19. 1. 17~19. 5. 17	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 Closed bottle	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式 (示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₇ H ₆ Cl ₂ 分子量 161.03	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 4.17 mg/L 汚泥 50 μL/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 0, 0 (0) % 直接 GC -2, -5 (0) %	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
	純度 86.5% ^{*1} 98%以上 (GC) ^{*2}	外観 僅微黄色透明液体 ^{*1} 無色透明液体 ^{*2}	
不純物 (物質名, 含有率) 2,4-ジクロロトルエン: 9.9% ^{*1} 2,6-ジクロロトルエン: 2.5% ^{*1} 2,3-ジクロロトルエン: 1.2% ^{*1}	溶解度 (対水, その他) 対水 105mg/L ^{*3}	審査部会 第 68 回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点 4~5°C ^{*1}		判定	判定
沸点 197~200°C ^{*1} 199°C ^{*2}	1-オクタノール/水分配係数	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 103% (汚泥+被験物質)系 99%	備考
密度		2. 実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	
LD50	安定性		
チャートの有無 (有)・無			
用途			
生産量 (年)			
試料 和光純薬工業株式会社 ^{*1} 東京化成工業株式会社 ^{*2}			
経済産業公報発表年月日 月 日			

*1 分解度試験サンプル, *2 濃縮度試験サンプル, *3 株式会社三菱化学安全科学研究所測定値

濃縮度試験						濃縮度試験						毒性試験			
試験期間 19.12.7 ~ 20.3.13						試験期間 ~						依 頼	年 月 日		
試験装置 標・揮 LC50値 2.7 mg/L (96hr) 魚種(ヒメダカ)						試験装置 標・揮 LC50値 mg/L (hr) 魚種							部別別試験(濃縮倍率) 第1濃度区 外皮 760 頭部 1150 内臓 2370 可食部 703 第2濃度区 外皮 751 頭部 1180 内臓 2830 可食部 819 排泄試験(半減期) 第1濃度区 1.0日 第2濃度区 1.0日		
水槽設定濃度 (µg/L)						水槽設定濃度 ()						経過			
		被験物質		分散剤				被験物質		分散剤					
第1濃度区		20		25000				第1濃度区							
第2濃度区		2		25000				第2濃度区							
第3濃度区								第3濃度区							
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 5.6% 終了後 6.0% 魚種(コイ)						濃縮倍率 脂質含有率 開始前 % 終了後 % 魚種()									
		7日後		13日後		28日後		32日後		39日後					
第1	水槽濃度 (µg/L)		19.3		19.2		19.6		19.7		19.6		第1	水槽濃度 ()	
	倍率		1330		1050		1210		1310		1220			倍率	
第2	水槽濃度 (µg/L)		1.94		1.91		1.93		1.94		1.93		第2	水槽濃度 ()	
	倍率		1150		1090		1330		1220		1070			倍率	
第3	水槽濃度 ()												第3	水槽濃度 ()	
	倍率													倍率	
審査部会 第77回 20年7月25日開催						審査部会 第 回 年 月 日 開催									
判定結果						判定結果									
備考 [定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 1190倍 第2濃度区 1160倍 [回収率] [定量下限濃度] 試験水 100% 試験水 第1濃度区 1 µg/L (実施せず) 第2濃度区 0.1 µg/L 供試魚 91.3% 供試魚 38 ng/g [実施機関] 株式会社三菱化学安全科学研究所						備考									

K-1201C類似物質表

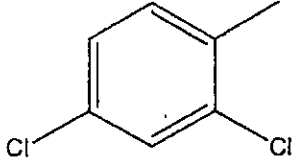
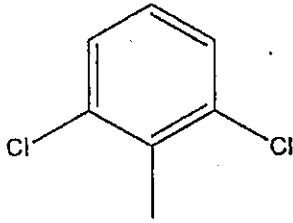
化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
2,4-ジクロロ トルエン (95-73-8)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1995)	/	4.03 (48hr)	1区(20μg/L) : 606~858 2区(2μg/L) : 639~939 脂質含有率 4.4%	低濃縮性 (1996)
2,6-ジクロロ トルエン (118-69-4)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1996)	/	5.57 (48hr)	1区(20μg/L) : 379~567 2区(2μg/L) : 246~828 脂質含有率 3.9%	低濃縮性 (1996)

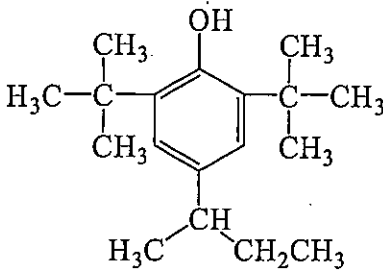
整理番号 K-1201D (3-0078)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
3,4-ジクロロトルエン (95-75-0)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
	試験期間 19. 1. 17~19. 5. 17	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 Closed bottle	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式 (示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₇ H ₆ Cl ₂ 分子量 161.03	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 4.17 mg/L 汚泥 50 μL/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 0, 0 (0) % 直接 GC -3, 1 (1) %	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
	純度 99.9% ^{#1} 95%以上 (GC) ^{#2}	外観 無色透明液体	
不純物 (物質名, 含有率) -	溶解度 (対水, その他) 対水 36mg/L ^{#3}	審査部会 第 68 回 19年10月26日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点 -		判定	判定
沸点 205℃	1-オクタノール/水分配係数 -	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 103%	備考
密度		2. 実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	
LD50	安定性 通常の取り扱い条件においては安定。酸化剤との接触に注意する。		
チャートの有無 (有)・無			
用途			
生産量 (年)			
試料 東京化成工業株式会社			
経済産業公報発表年月日	月 日		

#1 分解度試験サンプル, #2 濃縮度試験サンプル, #3 株式会社三菱化学安全科学研究所測定値

濃縮度試験						濃縮度試験						部位別試験 (濃縮倍率)		毒性試験		
試験期間 19. 12. 17 ~ 20. 3. 18						試験期間 ~								依 頼		年 月 日
試験装置 標・揮 LC50 値 2.8 mg/L (96hr) 魚種 (ヒメダカ)						試験装置 標・揮 LC50 値 mg/L (hr) 魚種						第1濃度区		経過		
水槽設定濃度 (µg/L)						水槽設定濃度 ()						外皮 817				
被験物質		分散剤				被験物質		分散剤				頭部 938				
		2-メチルシロノール										内臓 2700				
第1濃度区		20	25000				第1濃度区						可食部 607			
第2濃度区		2	25000				第2濃度区						第2濃度区			
第3濃度区						第3濃度区						外皮 1150				
												頭部 1040				
												内臓 2770				
												可食部 777				
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 6.1% 終了後 6.6% 魚種 (コイ)						濃縮倍率 脂質含有率 開始前 % 終了後 % 魚種 ()						排泄試験 (半減期)				
												第1濃度区 0.7 日				
												第2濃度区 0.9 日				
		7日後	17日後	28日後	35日後	39日後			日後	日後	日後	日後	日後			
第1	水槽濃度 (µg/L)	19.0	18.8	18.8	18.6	18.6	第1	水槽濃度 ()								
	倍率	1230	1270	1160	1080	1060		倍率								
第2	水槽濃度 (µg/L)	1.99	1.88	1.84	1.84	1.85	第2	水槽濃度 ()								
	倍率	765	985	653	826	1010		倍率								
第3	水槽濃度 ()						第3	水槽濃度 ()								
	倍率							倍率								
審査部会 第77回 20年7月25日開催						審査部会 第 回 年 月 日 開催										
判定結果						判定結果										
備考						備考										
[定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 1100倍 第2濃度区 866倍																
[回収率] [定量下限濃度]																
試験水 100% (実施せず) 試験水 第1濃度区 1 µg/L 第2濃度区 0.1 µg/L																
供試魚 88.7% 供試魚 47 ng/g																
[実施機関] 株式会社三菱化学安全科学研究所																

K-1201Dの類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
2,4-ジクロロ トルエン (95-73-8)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1995)	/	4.03 (48hr)	1区(20µg/L): 606~858 2区(2µg/L): 639~939 脂質含有率 4.4%	低濃縮性 (1995)
2,6-ジクロロ トルエン (118-69-4)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1996)	/	5.57 (48hr)	1区(20µg/L): 379~567 2区(2µg/L): 246~828 脂質含有率 3.9%	低濃縮性 (1996)

整理番号 K-1760 (NEDO 335, 3-0540)	分解度試験	分解度試験	分解度試験																								
2, 6-ジ-tert-ブチル-4-sec-ブチルフェノール	事業対象年度 平成17年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日																								
(17540-75-9)	試験期間 17. 8. 3~18. 2. 14	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .																								
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮																								
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₁₈ H ₃₀ O 分子量 262.43	試験濃度	試験濃度	試験濃度																								
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L																								
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L																								
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間																								
	試験結果 間接 BOD -1, -1, -1 (0)% 直接 HPLC 3, 2, 1 (2)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接																								
純度*1 96.4%	外観*1 白色固体	審査部会 第 56 回 18年 7月21日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催																								
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 3.6%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 547µg/L (フラスコ法, 25℃) 対テトラヒドロフラン 10 g/L 以上 対アセトニトリル 10 g/L 以上 対クロロホルム 10 g/L 以上	判定 難分解性	判定																								
融点*2 25℃	1-オクタノール/水分係数 log Kow = 6.43*3	備考 1. 回収率 (水 + 被験物質) 系 95.1% (汚泥 + 被験物質) 系 95.8% 2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため, 0 と表記した。	備考 ・ 被験物質残留率 (%) <table border="1" data-bbox="1321 1085 1680 1260"> <thead> <tr> <th></th> <th>試験液</th> <th>ソーダライム</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水系</td> <td>90</td> <td>0</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>汚泥系</td> <td>88</td> <td>0</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>-1</td> <td>89</td> <td>1</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>-2</td> <td>89</td> <td>0</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>-3</td> <td>89</td> <td>0</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> ・ 被験物質は一部変化し, 不明変化物を生成して残留する。また, 被験物質の一部はソーダライムに吸着した。		試験液	ソーダライム	合計	水系	90	0	90	汚泥系	88	0	88	-1	89	1	90	-2	89	0	89	-3	89	0	89
				試験液	ソーダライム	合計																					
水系	90			0	90																						
汚泥系	88			0	88																						
-1	89			1	90																						
-2	89	0	89																								
-3	89	0	89																								
沸点*2 141~142℃ (10mmHg)	安定性																										
密度*2 0.902 g/cm ³ (25℃)																											
LD50																											
IRチャートの有無 (有) ・ 無																											
用途																											
生産量 (年)																											
試料 購入先 Aldrich Chemical																											
経済産業公報発表年月日 年 月 日																											

*1 Aldrich Chemical 添付資料による。 *2 Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheets (Version 1.2) による。 *3 Kowwin v 1.67 による計算値。

濃縮度試験 事業対象年度 平成19年度					濃縮度試験 年 月 日					部位別試験 (濃縮倍率) 第1濃度区 外皮 28000, 21000 頭部 40000, 38000 内臓 84000, 89000 可食部 19000, 18000 第2濃度区 外皮 31000, 30000 頭部 46000, 45000 内臓 110000, 100000 可食部 21000, 16000 排泄試験 (半減期) 第1濃度区 17日 第2濃度区 15日					毒性試験	
試験期間 19. 12. 21 ~ 20. 3. 31					試験期間 ~										年月日	
試験装置 標・揮		LC50値 3.64 mg/L (96hr) 魚種 (ヒメダカ)			試験装置 標・揮		LC50値 mg/L (hr) 魚種 ()			依 頼		経過				
水槽設定濃度 (µg/L)					水槽設定濃度 ()											
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤									
		HCO-40	N,Nジメチルホルムアミド													
第1濃度区		10	50	20000	第1濃度区											
第2濃度区		1	5	20000	第2濃度区											
第3濃度区					第3濃度区											
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 4.16% 終了後 5.34% 魚種 (コイ)					濃縮倍率 脂質含有率 開始前 % 終了後 % 魚種 ()											
		13日後	26日後	39日後	49日後	60日後			日後	日後	日後	日後	日後			
第1	水槽濃度 (µg/L)	8.92	8.66	8.39	8.63	8.63	第1	水槽濃度 ()								
	倍率	14000	22000	26000	31000	35000		倍率								
		15000	22000	27000	32000	38000										
第2	水槽濃度 (µg/L)	0.882	0.865	0.824	0.864	0.878	第2	水槽濃度 ()								
	倍率	16000	24000	26000	33000	37000		倍率								
		14000	22000	29000	33000	40000										
第3	水槽濃度 ()						第3	水槽濃度 ()								
	倍率							倍率								
審査部会 第77回 20年 7月 25日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催											
判定結果					判定結果											
備考 [定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 32000倍 第2濃度区 33000倍 [回収率] [定量下限濃度] 試験水 83.5% 試験水 第1濃度区 0.73 µg/L 第2濃度区 0.073µg/L 供試魚 82.4% 供試魚 530ng/g [実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構					備考											

K-1760の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
6-tert-ブチル- 2,4-キシレンール (1879-09-0)		3-0540 (K-1228)	標準(4W) 1995年実施 BOD 4, 3, 5 (4) G C 0, 4, 0 (1)	難分解性 (1995)	1995年実施 4.08	6.58 (48hr)	1995年実施 1区(20µg/L): 107~213 2区(2µg/L): 58~263 脂質含有率 3.9%	高濃縮性 ではない (1995)
2,6-ジ-tert-ブチル-p-クレゾール (128-37-0)		3-0540 9-1805 (K-80)	標準(2W) 1975年実施 BOD 0, 0 (0) G C 10, 21 (16) U V(280nm) 11, 30 (20)	難分解性 (1975)	5.03*1	5.9 (48hr)	I. 1976年実施 1区(500µg/L): 500~5000 2区(50µg/L): 1000~3100 脂質含有率 -	高濃縮性 (1976)
			逆転(4W) 1977年実施 BOD 22, 34 (28) G C 47, 68 (58)	再試験 指示 (1977)			II. 1979年実施 1区(500µg/L): 220~2800 2区(50µg/L): 230~2500 3区(5µg/L): 330~1800 脂質含有率 -	中濃縮性 (1979)
2,6-ジ-tert-ブチル-4-エチル フェノール (4130-42-1)		3-0540 (K-1031)	標準(4W) 1989年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 31, 17, 13 (20) [一部ソーダライムに吸着した] (参考データ, ソーダライムなし) HPLC 1, 2 (2)	難分解性 (1989)	1990年実施 >3.27	7.26 (48hr)	1990年実施 1区(10µg/L): 1420~5060 2区(1µg/L): 930~4870 脂質含有率 3.7%	高濃縮性 ではない (1990)
2,4,6-トリ-tert-ブチルフェノール (732-26-3)		3-0540 (K-555)	標準(4W) 1981年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 1, 9, 5 (5)	難分解性 (1981)	1982年実施 6.06	128 (48hr)	1982年実施 1区(10µg/L): 4830~16000 2区(1µg/L): 4320~23200 脂質含有率 4.5%	高濃縮性 (1982)
2,6-ジ-tert-ブチル-4-sec-ブチルフェノール (17540-75-9)		3-0540 (K-1760)	標準(4W) 2005年実施 BOD -1, -1, -1 (0)*2 HPLC 3, 2, 1 (2) 被験物質は一部変化し、不明変化物を生成して残留する。また、被験物質の一部はソーダライムに吸着した。	難分解性 (2006)	6.43*1	3.64 (98hr)	2008年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(10µg/L): 32000 2区(1µg/L): 33000 脂質含有率 開始前 4.16% 終了後 5.34%	

*1 Kowwin v 1.67による計算値。

*2 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。